



まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

議会への要望書回答

2013年、11月「開かれた議会」の推進を求めて要望書を提出しました。
稲山良文議長名でその回答が届きました。

2009年の同様の要望書の回答から4年、議会改革委員会の検討へつながり、前向きな回答となってきたことは評価できます。それにしても新しい議員体制となって、一気に改善といかないのが議会なのでしょうか。近隣の自治体では、当たり前となり、町民の利益になることが、なぜ決断できないのでしょうか。情報公開は民主主義の基本です。3月議会での、日曜議会の開催など評価されることはありますが、よりわかりやすい町政へ、さらに一歩進めるために、スピーディーな対応を望みます。

要望書に対する検討について

平成25年11月29日付けで提出されました要望書につきまして、下記のとおり回答いたします。

なお、町議会では、町民により信頼され開かれた議회를めざし、議会改革にかかわる調査研究および提言を行うことを目的に議会改革検討委員会を設置しております。いずれの要望項目につきましても検討課題として取り組んでいる状況でございますので、ご理解をお願い申し上げます。

記

1. 委員会の傍聴につきましては、寄居町議会委員会条例にもとづき、委員長の許可を受けた方に傍聴を認めております。会議室の形状、公開のための設備等検討中でありますので、当面は現在の対応を継続することといたします。
2. 本会議のインターネット中継および録画公開につきましては、中継のための設備や経費等も含めさらに検討してまいります。
3. 議会報告会につきましては、今後開催することを前提に開催時期・方法等を今後さらに検討してまいります。

議 会 傍 聴

2014. 3月議会

早くインターネット中継、録画公開を

忍耐の一般質問傍聴

かつてまちネットでは、新しいデートスポットに議会傍聴を！と呼び掛けたことがあったが、これはかなり忍耐を要すると感じる。2013年12月、2014年3月議会の一般質問の傍聴をした。質問者がこの数年は10人以上と、多くの町議が登壇することは歓迎、評価できるが、もっと質問事項を練って、簡潔にしてほしいと感じる質問が多い。川口市では、市民団体がベスト一般質問の議員を表彰するという記事を読んだことがあるが、タイムリーな内容、市民への貢献度、論点のしっかりしたわかりやすいことなどが評価されるようだ。

一問一答方式

平成20年より、寄居町議会では、質問内容をよりわかりやすくするために一問一答方式を導入。議論のない議会など存在価値がないといった意味で、多くの自治体でこの方式を採用しているが、質問を受ける執行側（町長、職員）の反問（質問を受けた側から質問者へ逆に質問をする）はない。事前に質問内容を提出した質問の回答に対する再質問を、直できることはより内容を深めることができるが、その分質問内容をしっかりとらえていないと、とんでもない方向へ飛んでしまったり、焦点がぼけてしまい、結局何を言いたかったのといった事態に陥ってしまう。そういった意味では、質問議員は相当内容を事前に調査し、論点を絞るなど事前準備が必要となり、質問する議員の不勉強さをも

ろに出てしまうともいえる。焦点のぼけた、一問一答につき合わされる傍聴者はたまったものではない。質問者と回答する町長、職員の回答にも??といったことも多い。もっと的確に、真摯に対応してほしいと感じることが多々ある。こういった状況下での議会傍聴は、よほど時間の余裕がないと傍聴席に座ってられないのが率直な感想と思う。そういった意味でも、一刻も早いインターネット上での公開録画を実現して欲しいと強く感じる。

もっと議論の場を！

3月議会最終日、一般会計予算が一部修正して採択された。NPO法人寄居エコタウン・クリエーションへの予算の削除だ。この内容は、2012年、議会で決議した自然エネルギー推進のまち宣言を受け、よりEエコタウン推進のまち宣言をした町からの提案のようだ。詳細は分からないが、目的ははっきりしている。議会に突然上がってきたこの構想を、しっかり議論もなく、まだ実体のない組織に1000万円以上の予算と、職員の派遣は承認できないという反対理由だ。この判断は当然のことと思う。が、削除する以上、議会側から新しい提案があつてしかるべきではないのか。さらに、執行側、主に町長と思うが、もっと熱意をもって、議会へのロビー活動がなされるべきではなかったのかと感じる。エコタウン構想を進めたい執行が、新しい組織を動かすには、ヒト、モノ、金が必要、と設定したのだ

が、一足飛びにこんなスタートを切る前に、まずは、この構想を進めるための町民を巻き込んだ議論の場をまちが設定して欲しい。町民にとっては、再生可能エネルギーの推進等のエコタウン構想が、実効性のある方向へと推進されることは大歓迎である。未来へ繋ぐ、新しい寄居町の試みを、ぜひ産・官・民一体で築き上げて行きたい。

報告 大北



日曜議会へ行ってみました

3月16日に行われた「日曜議会」については、「議会だより」2月号に見開き2ページに「もっと開かれた議会へ」という題名で、大きく宣伝されていました。これで傍聴者が少なくても、住民側が「開かれてなくてもいい議会」と思っていると誤解されちゃう、と、ほんの10数分間でしたが、傍聴者数を増やすために行きました。午後1時過ぎ、すでに審議は始まっていましたが、一人目の傍聴者でした。予算の細かいことを議員がいくつか質問して、議場にいる職員が答えるのを、他の議員や職員は、あまり関心なさそうに眺めている、というところ。そのあとすぐ、中年男女各一人ずつの傍聴者が来まして、帰り際に受付の町職員に尋ねたところ、午前中から合わせて、15名くらいの傍聴だったとのこと。自分は、2年前に「原発国民投票」についての請願運動をした際に、初めて議会傍聴をしたのですが、やっぱり、「何か」ないと、わざわざ傍聴しに行く気にはならないなあ、と、今回の日曜議会のあとも

思いました。支持する議員の、あるいは関心のある議題についての、一般質問を応援しに行く、というのもあり、ですが、日中の時間が惜しいから、ネット中継があって、録画で観ることができたら、いいなあとも思います。

伊藤泰子

容り法不採択

平成25年12月議会へ提出された「容器包装リサイクル法を改正し、発生抑制と再使用を促進するための法律の制定を求める意見書」（請願団体：生活クラブ生協寄居支部）の採択を求める請願は、継続審議となっていました。3月議会で委員会及び本会議で不採択となりました。（ネット通信 vol 36号参照）

今回の請願事項の中に「③2Rの環境境域を強化し、リユースを普及するため、学校牛乳のびん化が促進されるように様々な環境を整備すること」があげられていましたが、学校給食での紙パックに比較して、びんは、配送コストもかかり、金額も高つくなど現実的でないなどの反対意見により否決されました。びんのリユースは、資源、エネルギーの節約、CO2の削減など環境にやさしい、といった大きなメリットがあります。また、使い捨ての空きびんは、自治体の税金で回収され、保管し、リサイクル業者へと渡されます。これらの回収料金は私たちの税金が使われ、自治体の財政に大きな負担をかけています。事業者にとっては、リサイクルコストの安い使い捨てびんが主流となり、洗って何度も使用可能なビールびん、一升びんなどは影をひそめています。環境に負担、資源の枯渇よりも経済優先がここでも先行されています。今すぐ、町の学校給食に反映できなくても、構造的な問題として法

の整備として、将来的な視野に立って判断をしてほしかったと痛感しました。

H.O

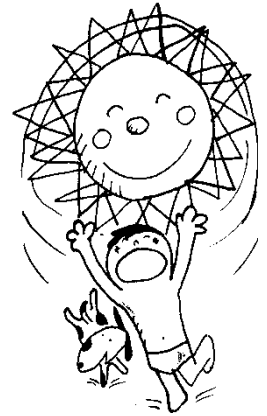
埼玉の電気はおひさまと森で

「埼玉県 省エネルギー・再生可能エネルギー促進条例（仮称）」の制定を求める請願の連絡会が発足します

発起人：生活クラブ生活協同組合・埼玉、埼玉県市民ネットワーク

運動の主旨

1. 昨今問題となっています異状気象の本質的な解決策は、私たちの使うエネルギーを大幅に減らしながら、化石燃料から再生可能な自然エネルギーへのシフトを進めることが重要です。
2. 埼玉県は電力の一大消費地であり全国5位（平成20年）に上る電気を使用しています。
3. 一方で埼玉県は晴天日数日本で森林資源も豊富な自然エネルギーの宝庫であります。
4. 自然エネルギーは無尽蔵であり、しかも原発や火力発電などに比べて環境を汚しません。
5. また、再生可能エネルギーは「エネルギーの地産・地消」「エネルギー自給率の向上」「エネルギー自治」をもたらす、新しい産業の増大、雇用の促進などを生み出し地域経済の活性化につながります。



省エネルギー、再生可能エネルギーで原発はいらない。

寄居町では、全議員一致で2012年に、「自然エネルギー推進のまち宣言」を求める提案が可決され、その後「よりエコタウン推進のまち宣言」が行われています。議員提案により議会で採択された内容は、素晴らしいものです。この提案を、実効性のあるものとしていくためには、町民の積極的な取り組みが必要です。採択された決議文の中にある

- 1 太陽光発電を中心としたエネルギーの地産地消実現に向けた取り組みを進めること
- 2 住民へ利益還元できる遊休地などを利用した自然エネルギー推進事業に取り組むこと

は、今後の寄居町が目指す姿の指針です。一步ずつ、根気強く進めていきたいと思います。

5月から署名活動が始まります。

再生可能エネルギーフォーラム

3月16日、城南信用金庫の理事長である吉原毅氏と前参議院の大河原雅子氏の基調講演がありました。信用金庫という金融機関が、脱原発宣言をしています。吉原氏は、信用金庫はもとも協同組合理念のもと、社会貢献から始まった組織、現在原発がすべて停止しているが、全く問題がないことをたくさんの人に伝えてくださいと話していました。クレヨンハウス刊行の吉原氏の著作、城南信用金庫の「脱原発宣言」をまちネットで購入しました。興味のある方はお声掛けください。貸し出し



言わせて

警察、町役場、日赤奉仕団、社会福祉協議会、地元役員はじめ住民も・・・、本当に大勢が、時をいとわず尽力する様子を間近に見て、感銘を受けた。消防団員のなり手の減少が社会問題にもなっている昨今だが、類焼を防ぐための放水等でも消防団員が活躍していた。災害を最小限にとどめるためにも、地域力が肝心だと改めて考えさせられる夜となった。ちなみに、火事等を近所に知らせる際、メガホンやホイッスルがあれば役に立つかも知れない。そう思いながら、ピンポンダッシュしていた私でした。火の用心！ YS

福島の子どもの保養プロジェクト 沖縄・球美の里ボランティアに参加

雪害の厳しい農場を後にして、沖縄の久米島へ行ってきました。福島に住む親子の保養ボランティアです。福島から羽田についた幼児を含めて42人を引率して、久米島の球美の里で10日間生活を共にしました。島民が日本兵に虐殺された歴史を持つ久米島が、放射能汚染に苦しむ福島の人たちに保養の場とたくさんの協力をしてくれています。夕食に出た味噌汁に皮付きのジャガイモが入っているのを見て、「福島では怖くて皮をむかないで使うなんて考えられない」と。砂遊びや磯遊びに夢中なわが子を見て、すぐそこに海があるけど、あれ以来一度も行ったことはない。その場から離れられない子を抱き上げて涙する。

慰問の三味線コンサートでは、優しい歌詞にまた涙がこぼれる。元気な子供たちは、ボランティアの大学生に体当たりで遊んでもらって大喜び。子どもたちはここでは何をしてもいい、禁止事項はない、という説明でしたが、戦争ごっこをした小学生とそれに付き合った大学生ボランティアが厳しく叱責されました。命を軽んじる国の対応に、ここは「命を大事にする」という強いメッセージが込められた場だからです。台風や今回のような雪の被害は突発的で、それはそれで厳しいものがありますが、建て直すという前向きな行動を取りやすい被害です。しかし、放射

能のように継続的に、先が見えない状態で、転居せずにそこにとどまる選択をしたお母さんや子どもたちの毎日は、本当につらく不安なものだという事を肌で感じました。埼玉に戻り、現場に復帰しています。そろそろ老後をと言っていたのに、なぜか、農場の立て直しに俄然力が入ります。

鈴木恵子



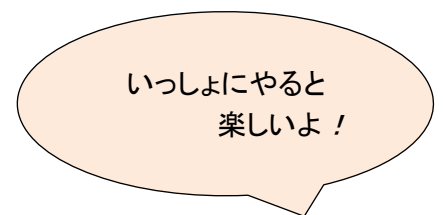
まちネット寄居総会報告

2月1日、総会が開催され、議案書に沿って審議、すべての議案が可決されました。(出席者8名、委任状17名)

総会后、8月に行われる町長選についての対応、情報交換などを行いました。昨年は、イベントが多くかなりのエネルギーを要しましたが、それなりの結果があったことなど総括されました。今年度の活動計画の重点項目として、脱原発、自然エネルギー推進のための活動と、開かれた議会への継続的な働きかけがあります。まだ議案書に目を通されていない方、是非一度ご覧になってください。そしてまちネット寄居に、あなたの声を、力を届けてください。ともにまちづくりを進めましょう。

ご近所が火事！

土曜日、ぼちぼち日が暮れ始める頃、玄関ブザーが鳴った。「〇〇さんちが火事！」。見ると、庭から出たであろう火の手は壁を舐めるように2階の屋根まで達していた。2軒北側の家だ。119番通報と1人暮らしの家人は留守であることを確認後、裏手の家々へ知らせに走った。「火事！火事です！〇〇さんちが火事！」と叫びながら、ピンポンダッシュして走った。一回りして自宅に駆け込み、母を車椅子に移していざという時にすぐ連れ出せるよう待機させ、また、走った。火事の東側の家は5mほどしか離れておらず心配したが、物置が変形する被害で済んだ。火元の家は全焼するもケガ人はなく、鎮火して気がつけば夜8時をまわっていた。消防関係者は元より、



家庭菜園講座はじまります

3月30日、男衾コミセンにて講座の説明会が開催されました。
 (17名+スタッフ5名の参加)
 町の広報を見てという方が多く、ご夫婦、定年退職後の方、全くの初心者からすでに4反の畑を耕作されている方まで、多岐にわたる方々の参加がありました。

小さな循環へ

まちネット寄居は、台所から出た生ゴミをダンボールコンポストで堆肥にする普及活動を続けてきました。自分で作った野菜を食べて、そこから出た生ごみをたい肥にして、畑に戻して、またおいしい野菜を育てる、これって小さな循環ですよ。こんなことができたなら、ちょっとだけ環境も心も豊かになりそう。こんな小さな取組が広がっていったら、立派な地域循環になります。種をまいて、芽が出て、背がどんどん伸びてって、成長していく野菜たちのおつきあいはとても楽しい時間です。また、野菜作り仲間の広がりや地域コミュニティの場ともなります。ささやかだけど自分で作って、初めて知ることがいっぱいあります。命を支える食と農の入門です。

第1回目 4月20日(日)
 午前10時~12時 今市地区
 の農場にて



木曜野菜市

大雪にもめげず、皆農塾、おかず畑の増谷さんからの野菜提供は、今年も続いています。にんじん、菜花、コウサイタイなど春を告げる元気な野菜たちが並びました。2014年3月現在、37,050円の売り上げがあり、包装代等を返金して、29,650円の収入となりました。木曜日に残った野菜は、吉田充子さんが「くるみ」へ運んでくれます。本当にたくさんの方たちに助けられています。改めて皆さんの援助に感謝です。ありがとうございました。

寄居町町長選挙

8月5日に告示、10日に投開票される町長選挙にいち早く、2期目を目指す、現職の島田町長が立候補の名乗りを上げました。一方、立候補予定として町会議員多数が支持する、現在町監査役の花輪利一郎氏の名前が挙がっています。まちネット寄居では、今回の選挙に対し、できるだけ公平な情報と考え、告示前の立候補予定者の立会演説会等の計画を考えています。より民主的な、透明性のある町政をと願い、私たちにできることに取り組んでいきます。

ネット会員募集中
 いつでもどうぞ!

毎日の暮らしの中で、感じている不安、困っていることから出発。自分たちの足元から見つめ、話していきましょう。ぜひ、お仲間になってください。
 問合せ・・・大北 (582 - 4073)

編集後記

2014年も4月に突入。このところ新年の挨拶もできないまま、ネット通信も総会を経て、2か月以上過ぎてからの発行となっている。タイムリーな対応をと思いつこの状態が定着しつつある。今年の2月の記録的な大雪の影響はいたるところに出てきた。半月も大雪の影響を受けて、復旧にも時間がかかってしまった。農業被害も甚大だったが、生活者の機能も奪われ、何とも大自然の猛威には無力な人間を再度認識する。白銀のロマンチックな世界等吹き飛んでしまった。それでも、何が何でも行かねばならぬ、せねばならぬの日常から、家の中に閉じ込められることで、突然空いた時間にふともっとゆったりと暮らせるのでは…と感じた人も多かったのでは。まさに忙しさは、心を滅ぼしてしまう。

HO